

# 故人を偲んで……

亡くなられた方のご冥福を祈り

故人が設けてくれた人と人とのご縁

親族一同の絆を再確認する機会を

置き土産として与えてくれたひととき

故人への感謝の思いを新たに

自分自身を見つめ直す場でもあります。

おもてなしの心を持って

施主様のお手伝いをさせていただきます。

## 法事と法要の違い

法要とは、遺族が故人を偲び冥福を祈るために行う「追善供養」のことを指します。法要は一般に「法事」と呼ばれていますが、厳密にはお経をあげてもらう追善供養を「法要」と呼び、追善供養の後席の会食まで含むものを「法事」と呼びます。

法要は、遺族が故人の冥福（冥土の幸福）を祈るために行うものです。法要を営むことによって故人は極楽浄土に往生できるとされているので、故人を供養するためには必ず必要な儀式です。ただし、浄土真宗ではご臨終と同時に極楽往生すると考えるので、中陰の法要の意味は故人を偲び、仏法に接するためのものと考えます。

## おとぎやうは

※お齋＝法事や法要のあとの食事会のことを言います。

仏教の場合、法事の際に、僧侶による読經のあとと食事がふるまわれます。

この食事をおとぎ（お齋）と呼びます。僧侶や参列者へのお札の気持ちをこめたお膳であると同時に、一同で故人を偲ぶための行事です。

## 年忌法要

年忌法要は、年回法要ともいい、一般的に法事と呼ばれているものです。

亡くなった翌年の一周忌から始まり、その翌年の亡くなってから2年後が三回忌です。三回忌からは亡くなった年を含めて数え、七回忌、十三回忌、十七回忌、二十三回忌、二十七回忌、三十三回忌、五十回忌と追善供養の法要を営みます。

三回忌までは家族や親族のほか、故人と縁の深かった方々を招きますが、七回忌以降は次第に招く人を、少数に絞っていく場合がみうけられます。

年忌法要の回数は、慣習や菩提寺の考えによって異なりますが、一般的には三十三回忌か五十回忌をもって、最後の法要の「弔上げ」とすることが多いです。

# 心のこもったおもてなし

花巻温泉では葬儀、告別式はもとより、年忌法要、追悼式にいたるまでご利用いただけます。  
また、ご自宅やお寺・法要施設で行う場合ケータリング（仕出し）いたします。  
人数に合わせた会場づくりやお引物・お引菓子等、心をこめて、ご用意いたします。



## ご法要までのご準備

◇日時・場所は6か月～2か月まえに決めます  
故人の命日（祥月命日）に行うのが理想的ですが、法要では、僧侶に読経していただくわけですから、お寺様（住職）や主な親族の都合に合わせ、お日取りをお選びになるのが一般的です。皆様が集まりやすい土・日曜にずらすこともできます。  
遅らせるのは故人を粗末にすることだとされています。

◇案内状は1か月前までに  
文面は、どなたの何回忌の法事かを明記し、日時・会場などを盛りこみます。  
先方のご都合も考慮して、早めのお手配が必要です。

◇お招きする方は、故人との関係を中心に  
まずご親族に連絡します。その後、施主との関係ではなく、故人のお世話になった方、親しかった方を中心にお招きします。出席するか否かは先方が決めることです。「あの人はたぶん来れないだろう」などと勝手に推測して、ご案内を省くのは失礼です。霊前に供養するのですから、必要以上の遠慮や省略は無用になります。



半精進料理



フルーツ盛合せ  
※4～5名様



オレンジケーキ  
※型：10cm×22cm

※その他メニューもございます。詳しくはお問い合わせください。

### 出張サービス

当ホテルでは、お寺、ご自宅、その他の会場での法事には、出張サービスを行っております。ぜひご利用ください。  
火葬場、念仏会場へのケータリング（お弁当等）のケータリングもいたします。  
\*その他ご希望に応じて調整いたしますので、お気軽にご相談ください。

### お料理

精進料理にこだわらず、むしろ故人のお好きだったお料理でのおもてなしは、故人を偲ぶ意味からもご列席いただく方に、喜ばれます。

### お引物 お引菓子

ご予算・ご要望に応じ、各種お引物・お引菓子をご用意いたします。

### 装花

祭壇やご遺影を飾るさまざまな装花を手配いたします。

### 各種手配 準備

案内状や席順表等の印刷物、ご住職の送迎、ご会葬者送迎バスの手配まで、皆様に代わって手配いたします。



故人を偲ぶご法事をしめやかに  
専任のスタッフが真心込めてお手伝いいたします。